

# 臨床歯科技工のコンセプトと 今後の歯科技工に不可欠な要素

私が開業した当初、まさに歯科の世界は「咬合」が全盛期の時代であった。その後、歯周治療の時代に私は顕微鏡と適合を結びつけ、インプラント補綴、審美歯科と歯科界のトレンドが移り行く中、約40年の技工人生を送っている。

10年ほど前から「予知性の高い・・・」という言葉をよく耳にするようになってきている。今日、歯科界で求められているものは、審美・機能・適合のトータルバランスであり千差万別の臨床歯科治療の中、さらには患者の要求度が上がりつつある中でそれらを達成するまでにはまだまだ問題が山積みなのが現状である。

今後、歯科用CAD/CAMやシェードテイキングなどのデジタルツールの発展は更に進んでいくことだろう。

だが、これらだけでは決定的な問題解決にはたどり着くことは難しいだろう。先人たちが培ってきた守っていくべき理論やテクニックとデジタルツールとの融合が必要になっていくのではないだろうか。

これらのデジタルツールをどのように利用してこの問題を解決していくことができるのか。また、それらを利用した歯科医院とのコミュニケーション活用方法など皆さんと一緒に考えていきたいと思う。

マイクロドントアトリエ白石  
白石 善男